



特集5

就活生3900人のIT企業人気ランキング

強い金融・商社系 安定と成長に期待

生成AI(人工知能)をはじめとする技術革新を急速に取り入れるIT企業。
人材確保のため、選考の早期化が顕著になるなど、
就活生を取り巻く環境にも変化が訪れている。
2026年卒の就活生はどのようなIT企業を志望しているのか。
みんな就が毎年実施する就職人気ランキングの最新版を一挙掲載する。
人気のIT企業がどんなアピールをしているかも合わせて紹介する。

(馬場 貴子)

NTTデータグループが16年連続首位

表 IT業界における就職人気企業の総合ランキング

順位()内は前回順位	企業名
1 — (1)	NTTデータグループ
2 — (2)	富士通
3 ↑ (4)	SCSK
4 ↑ (5)	伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)
5 ↓ (3)	Sky
6 — (6)	オービック
7 ↑ (12)	NEC
8 ↑ (18)	富士ソフト
9 ↓ (7)	楽天グループ
10 — (10)	トヨタシステムズ

2026年4月入社予定(26年卒採用)の学生が選ぶIT業界の人気企業トップはNTTデータグループだ。同社は調査開始以来、16回連続で首位の座を維持している。

クチコミ就職情報サイト「みんな就」と日経コンピュータは26年卒見込みの就活生を対象に、「IT業界新卒就職人気企業ランキング」調査を実

11	↑	(16)	NTTコムウェア*
12	↑	(29)	大塚商会
13	↓	(11)	野村総合研究所(NRI)
14	↓	(13)	日立製作所
15	—	—	LINEヤフー
16	↑	(21)	ソニーグローバルソリューションズ
17	—	(17)	パナソニック インフォメーションシステムズ
18	↓	(9)	アクセンチュア
19	↑	(20)	グーグル
20	↑	(22)	日本総合研究所
21	↑	(28)	アマゾン ウェブ サービス(AWS)ジャパン
22	↑	(23)	日鉄ソリューションズ
23	↑	(25)	東京海上日動システムズ
24	↑	(27)	日本IBM
25	↓	(24)	BIPROGY
26	↑	(30)	三菱UFJインフォメーションテクノロジー
27	↓	(8)	TIS
28	↑	(35)	NTTデータ・アイ
29	↑	(43)	みずほリサーチ&テクノロジーズ
30	↑	(32)	NECソリューションイノベータ
31	↑	(36)	ソニーネットワークコミュニケーションズ
32	↓	(19)	インテック
33	↑	(85)	アイ・エス・ビー
34	↑	(39)	SOMPOシステムズ
35	↑	(41)	NTTデータ フィナンシャルテクノロジー
36	↑	(68)	アイネス
37	↑	(66)	JSOL
38	↑	(131)	ニッセイコム
39	↑	(44)	日本ヒューレット・パッカード
40	↑	(59)	キャノンマーケティングジャパン
41	↓	(34)	日本マイクロソフト
42	↑	(53)	都築電気
43	↓	(38)	三菱総合研究所

44	↓	(33)	日立ソリューションズ
45	↑	(52)	ユニアデックス
46	↓	(42)	シーイーシー
47	↓	(31)	日立システムズ
48	↑	(120)	日本システム技術
49	↓	(40)	ニッセイ情報テクノロジー
50	↓	(46)	アビームコンサルティング
51	—	(51)	PwC Japanグループ
52	↓	(45)	ANAシステムズ
53	↑	(83)	NTTビジネスソリューションズ
54	↓	(37)	JALデジタル
55	↑	(93)	NTTデータMSE
56	↓	(49)	デロイト トーマツ コンサルティング
57	↑	(80)	GMOインターネットグループ
58	↓	(54)	キャノンITソリューションズ
59	↑	(91)	NTTデータCCS
60	↑	(124)	インテージ
61	↑	(64)	富士フイルムビジネスソリューションズジャパン
62	↑	(86)	第一生命テクノクロス
63	↓	(47)	コムチュア
64	↑	(101)	日本ビジネスシステムズ
65	↓	(26)	パーソルビジネスプロセスデザイン
66	↓	(57)	NECネットエスアイ
67	↓	(60)	電通総研
68	↑	(79)	NTTデータソフィア
69	↓	(55)	アイエックス・ナレッジ
70	↑	(84)	パナソニック コネクト
71	↑	(76)	大和総研
72	—	—	デンソークリエイト
73	↑	(94)	NTTデータビジネスシステムズ
74	—	—	電通総研IT
75	↓	(72)	リコー
76	↑	(98)	パナソニック システムデザイン

77	↓	(48)	パーソルクロステクノロジー
78	↑	(96)	農中情報システム
79	↓	(69)	RKKCS
80	↑	(112)	内田洋行
81	↑	(143)	JBCCホールディングス
82	↑	(140)	アシスト
83	↑	(99)	富士フイルム
84	↑	(104)	NTTデータ ウェーブ
85	↑	(90)	京セラコミュニケーションシステム
86	↓	(56)	丸紅I-DIGIOホールディングス
87	↑	(110)	NTTデータSMS
88	↓	(50)	TDCソフト
89	↓	(61)	電通デジタル
90	↓	(75)	ディー・エヌ・エー
91	↓	(73)	三井情報
92	↓	(74)	NTTデータグローバルソリューションズ
93	↑	(116)	NTTテクノクロス
94	↓	(63)	豊田自動織機ITソリューションズ
95	↓	(78)	アビームシステムズ
96	↓	(67)	JR東日本情報システム
97	↑	(100)	明治安田システム・テクノロジー
98	—	—	ベリサーブ
99	↓	(87)	NTTデータフロンティア
100	↓	(89)	サイボウズ

※2025年7月1日付で「NTTドコモソリューションズ」に変更

■IT業界新卒就職人気企業ランキング調査概要			
調査主体：みん就			
企画協力：日経コンピュータ			
調査期間：2024年4月11日～2025年3月27日			
調査対象：2026年卒業予定登録学生のみん就会員			
有効回答人数：3901人			
調査方法：「みん就」上でのWebアンケートおよび、みん就主催の就職イベントでのWebアンケート・紙アンケート			
※ノミネート企業198社の中から、投票者1人につき志望企業を5～7社選択			
※それぞれの企業に対して、あてはまる志望理由を5つの観点において選ぶ(それぞれ一つずつ)			
※前回順位は「2025年卒 IT業界新卒就職人気企業ランキング」の結果			
※ノミネート企業は、昨年発表した「2025年卒 IT業界新卒就職人気企業ランキング」のノミネート企業を中心に選出			
※総合順位は、第7志望までの票数を合算し順位付けした。同率順位については、志望順位によるポイント制にし、合計ポイントの高い順に再度順位付けを行った(第1志望を7ポイント、第2志望を5ポイント…第7志望を1ポイントとして合計ポイントを出し)			
※社名は一部を除き2025年5月時点での表記			

施した。2010年から毎年実施しており、16回目となる。

上位10社の顔ぶれでは、7位のNEC(前回12位)や、8位の富士ソフト(同18位)などが大きく動いた。

成長できる環境を求める

30位までの結果には、商社系や金融系企業のランクアップが目立つ。3位のSCSKや4位の伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)、23位の東

京海上日動システムズや26位の三菱UFJインフォメーションテクノロジーなどだ。みずほリサーチ&テクノロジーズは14位上げて29位だった。

今回の結果では、前回から続く安定志向に加えて、スキルや専門性を身に付けたり、多様な事業に関わったりする可能性の高い企業が上位にランクインした。

インディードリクルートパート

ナーズの栗田貴祥リサーチセンター上席主任研究員は就活生の安定志向を指摘する。一般的な傾向だと前置きした上で、「終身雇用や年功賃金の制度が揺らぐ今、会社としての安定した基盤や、自身の市場価値を高められる環境を就職先に求める傾向がある」と語る。

生成AI(人工知能)など先進技術の進展や経済状況など、社会の変化は急激だ。人材確保を急ぐ企業の採

用意欲は高く、選考の早期化に拍車がかかる。インディードリクルートパートナーズの調査では、2025年6月1日時点の就職内定率は81.6%だった。選考解禁時点で8割を超えるのは2年連続だという。

就活生の安定志向を裏返せば、不安がある。将来への不安に対処すべく、彼らは成長できる環境へ期待を寄せる。スキル取得が見込めるIT企業は、選択肢として魅力的に映る。

「足で情報を稼ぐ」学生増える

NTTデータグループの村上裕一コーポレート統括本部人事本部人事統括部採用担当課長は、人気の理由を事業内容の幅広さと人材育成への注力だと推測する。みんな就のアンケートでも、NTTデータグループに「世界を相手にしたスケールの大きい仕事」や「自社施設での研修制度」などを期待する回答が目立った。

村上課長は、26年卒の採用活動で学生の行動に変化を感じたという。例えば社員訪問だ。「『タイパ重視』の傾向がここ数年見られたが、2024年ごろから自分の足で情報を稼ぐ学生が増えた印象だ」と語る。「(1人当たりの訪問人数が)5人いれば多いほうだったが、今は10人以上に話を聞いたという学生もちらほら出てきた」(村上課長)。

その理由について、村上課長は「(他の学生との)差異化のためでは」と推測する。インディードリクルートパートナーズの栗田上席主任研究員も、「SNS活用が進む一方で、キャリア選択には一次情報の取得が重要だと捉えられている。狭き門である大手や有名企業への応募では、他の就活生と自らを差異化するために一次情報を取ろうとする学生がいる」と話す。

社員訪問は、学生がキャリアに対

するイメージをよりはっきりと持つため、入社後のミスマッチや早期離職を防ぐ施策として有効だ。NTTデータグループは5年ほど前から就活生、社員両方に社員訪問アプリの利用を推奨しており、今は600～700人ほどの社員が学生からの連絡を受け付ける。

訪問を受ける社員の人数を絞ったり研修を実施したりという企業もあるが、NTTデータグループはそこへ踏み込まない。「多様な人材が自社の魅力なのに、学生に話す内容が金太郎あめのように画一的になってしまうと逆効果だ」(村上課長)。

同社は2024年度に訪問を数多く受けた社員へインタビューを実施した。対応や留意点を聞き、社員訪問を成功させるためのヒントや事例をまとめてガイドを作成した。今後は社内にガイドを普及させ、動画の掲載や内容の拡充を図るなどして社員

自分を成長させてくれるか

図 2026年卒就活生を取り巻く環境と、就活生の意向

AI技術の躍進

新しい働き方

選考早期化

SNSなどによる
情報過多

ミスマッチ不安

安定した企業に
行きたい

自分をどれだけ
成長させてくれるのか

IT企業が
選択肢に

経済激変

既存制度のほころび



AIで採用官をトレーニング

図 ランクアップした企業による新卒採用の工夫の例

富士ソフト

学生への情報発信に社員100人のストーリー紹介



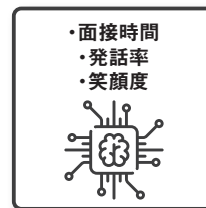
「talentbook」に掲載されている富士ソフトの技術職社員の記事

大塚商会

録画分析AIを通じ担当者のスキルと面接内容の質向上



大学生



面接官

・内定承諾率
・次の選考に参加した率
・「面接官と働きたい」度

・面接を通過させた率

大塚商会が面接の録画データなどから分析する項目

訪問の施策を強化していく方針だ。

先輩社員100人の情報発信

8位にランクインした富士ソフトは、順位を大幅に上げた企業の1つだ。前回の18位から10上がった。人財統括部人財開発部の山口絵梨佳部長は、その理由を「色々な経験をしたい学生に受けているからでは」と分析する。

同社は要件定義から保守運用までを手掛けるIT企業で、主力のシステム開発の他、事業内容もクラウド関連や車載向け制御ソフトウェア開発などと幅広い。志望動機として、ワンストップで一連の業務に携われる点を挙げる学生も多いという。ここ数年は新卒入社の社員数を800人程度確保している。

山口部長が「数年間の地道な取り組みが効果を出しつつある」という採用施策が、学生への情報発信だ。新卒採用情報サイトに、若手を中心とした社員約100人の仕事内容や1日のスケジュール、仕事のやりがい

などを掲示する。学生が自身の希望するキャリアに近い先輩社員を見つけやすくなる。新卒採用推進室の菊武美室長は「各社やっていることだが、ここまでの人数を手がけているのは当社ぐらいではないか」と自信を見せる。

情報発信の場所の1つとして、就職・転職サイト「talentbook(タレントブック)」を使う。同サイトでは、社員に焦点を当て、これまでのキャリアや今の仕事、やりがい、入社理由などを記事で紹介する。

AI分析で面接官のスキル向上

大塚商会は前回結果の29位から大きく上がり、12位にランクインした。児玉隆介人材開発部人事採用課長は、その理由を好調な業績やビジョンへの共感、実力主義の組織風土などにありそうだと分析する。同社の2024年12月期決算は増収増益で、売上高及び営業利益は過去最高だった。

もう1つ、児玉課長が理由として

挙げるのが、面接担当者のスキルと面接内容の質向上だ。「面接を通じて人や会社、商材の魅力が伝わり、さらに志望度が上がったのではないか」(児玉課長)。

この背景には、新型コロナウイルス禍のさなかに対応を迫られた面接のオンライン化の経験がある。同社は2021年から面接の質を向上させるために、面接をAIで分析するZENKIGENのシステム「harutaka IA(インタビューアセスメント)」を導入した。現在、対面とオンラインのハイブリッド方式で面接を実施している。

harutaka IAは、録画した面接データから、面接官と学生の発話量の比率や笑顔の度合い、言葉の内容などを定量的、定性的に抽出。こうしたデータに、次の面接への進み具合や内定承諾率といった情報も掛け合わせて分析する。例えばオンライン面接終了時、学生向けに表示されるアンケートでの質問の回答も参考に「この面接官と一緒に働き

商社系や金融系が順位を上げる

表 11分野別の就職人気企業ランキング

独立系SI

順位()内は前回順位

1	—	(1) オービック
2	↑	(3) 富士ソフト
3	↑	(6) 大塚商会
4	↑	(5) BIPROGY
5	↓	(2) TIS

メーカー

順位()内は前回順位

1	—	(1) 富士通
2	—	(2) NEC
3	—	(3) 日立製作所
4	—	(4) 日本IBM
5	—	(5) 日本ヒューレット・パッカード

メーカー系SI

順位()内は前回順位

1	—	(1) パナソニックインフォメーションシステムズ
2	↑	(3) NECソリューションイノベータ
3	↑	(7) キヤノンマーケティングジャパン
4	—	(4) 日立ソリューションズ
5	↓	(2) 日立システムズ

ソフトウェア開発

1	—	(1) Sky
2	—	(2) 日本マイクロソフト
3	—	(3) サイボウズ
4	↑	(5) 日本オラクル
5	↓	(4) セールスフォース・ジャパン

Webサービス

1	—	(1) 楽天グループ
2	—	(-) LINEヤフー
3	↑	(4) グーグル
4	↑	(7) GMOインターネットグループ
5	↑	(6) ディー・エヌ・エー

コンサルティング/総合研究所

1	↑	(2) 野村総合研究所(NRI)
2	↓	(1) アクセンチュア
3	—	(3) 日本総合研究所
4	↑	(5) みずほリサーチ&テクノロジーズ
5	↓	(4) 三菱総合研究所

金融ユーザー系SI

1	—	(1) 東京海上日動システムズ
2	—	(2) 三菱UFJインフォメーションテクノロジー
3	—	(3) SOMPOシステムズ
4	—	(4) ニッセイ情報テクノロジー
5	↑	(6) 第一生命テクノクロス

商社ユーザー系SI

1	—	(1) SCSK
2	—	(2) 伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)
3	—	(3) 丸紅・DIGIOホールディングス
4	—	(4) 三井情報
5	↑	(6) 日本タタ・コンサルタンシー・サービス

製造ユーザー系SI

1	—	(1) トヨタシステムズ
2	—	(2) ソニーグローバルソリューションズ
3	—	(3) 日鉄ソリューションズ
4	—	(-) デンソークリエイト
5	↓	(4) 豊田自動織機ITソリューションズ

その他ユーザー系SI

1	↑	(3) ANAシステムズ
2	—	(2) JALインフォテック
3	↓	(1) パーソルビジネスプロセスデザイン
4	—	(4) 電通総研
5	—	(-) 電通総研IT

通信系

1	—	(1) NTTデータグループ
2	—	(2) NTTコムウェア※
3	—	(3) NTTデータ・アイ
4	—	(4) ソニーネットワークコミュニケーションズ
5	—	(5) NTTデータ フィナンシャルテクノロジー

※ 2025年7月1日付でNTTドコモソリューションズへ変更

SI：システムインテグレーター

注：事業内容や主要株主の業種・業態などを基に分類

たいか」といった質問だ。

データを基にして、面接官ごとに面接傾向などのレポートを作成し、本人に配布する。大橋藍子人材開発部人事採用課係長は、「面接へのフィードバックをもらい、内容の質をさらに向上させたいという社員の意欲も高まった」と効果を語る。それまでは、人によって面接時間が異なることもあったという。

採用面接では、管理職や役員が面

接官だと「人事には面接の中身がブラックボックス」(大橋係長)との課題があった。harutaka IAの結果を面接官の選定に使い、高い面接スキルを持つ社員を選定したり、面接官として育成したりできるようになったという。

面接に臨む学生側には、面接官のスキルのばらつきが少なくなるメリットがある。

データの集積が進んだら、学生の

面接での様子と、実際に入社して一定期間がたった後の活躍度合いなどを掛け合わせて分析し、今後の面接での選考における参考指標にしてい

く方針だ。
会社が学生の適性をより精緻に見極められればミスマッチが減り、本人も気持ちよく活躍できるはずだ。児玉課長は「今後もさらに面接を高度化し、誰が面接を担当しても、志望者自身をよりよく判断できる環境

をつくっていききたい」と話す。

商社系、金融系の人気高まる

今回のランキングでは、企業分野別も調べた。具体的にはメーカーやメーカー系SI(システムインテグレーター)、ユーザー系のSI、独立系SI、通信系、コンサルティング／総合研究所など11分野だ。

調査結果では、商社系及び金融系企業の上位層が順位を上げた。住友商事のグループ会社であるSCSKとCTCの2社は商社ユーザー系SIのランキングで1位、2位に入った(総合ランキングでも3位と4位)。日本タタ・コンサルタンシー・サービスズが5位に入った。

CTCの井本麻衣子人事総務本部人材戦略部新卒採用課課長は、DX(デジタル変革)が関係すると見る。「元々は金融やメーカーを志望していたが、業界内のDXや業務効率改善などの需要に気づいて当社を志望する学生が、ここ5年ほどで増えた印象がある」と背景を分析する。

競争の中での立ち位置については、「伊藤忠商事のグローバルなネットワークを活用できるポジションにある点も強みなのではないか」(井本課長)。

金融ユーザー系SIでも、1位の東京海上日動システムズ(総合ランキング23位)、2位の三菱UFJインフォメーションテクノロジー(同26位)、3位のSOMPOシステムズ(同34位)が総合ランキングでそれぞれ2つ、4つ、5つ前回調査から順位を上げる結果となった。

「社会貢献性」に意欲

続いて志望理由別ランキングを示す。中でも注目したいのが、26年卒学生の社会貢献への意欲だ。今回取材した企業や大学の担当者、採用の識者のほとんどが26年卒の特徴として「社会貢献性」の重視を挙げた。

大塚商会の児玉課長は「社会貢献をしたいと話す学生は多い。特に、自分の会社が世の中に役立っている、社会に承認されていることを重

視する傾向を感じる」と語る。富士ソフトの山口部長も「(面接で)社会貢献をアピールする学生が多い印象だ」と見ており、CTCの井本課長も「面接では、ほとんどの学生が社会貢献したいという思いを語る」と明かす。

そうした意欲をくむのはどういった企業なのか。「社会に役立つ仕事ができそう」という項目で1位を獲得したのは、ニッセイ情報テクノロジー。保険や年金、ヘルスケアといった事業領域を手がけており、学生が身近に感じる商品・サービスとして想像しやすいのかもしれない。

東京女子大学キャリア・センターの井上麻紀課長は、IT業界の企業は他業界に比べて、研修や資格取得の施策をアピールする傾向があると話す。同センターの神田和範氏も「研修制度が充実していたり、資格手当などへの補助金が出たりするような会社は、企業としての余力の裏付けだとも見ているので、学生へ勧める傾向にある」と語った。

ニッセイ情報テクノロジーが複数項目にランクイン

表 志望理由別ランキング

社会に役立つ仕事ができそう			ITなど専門スキルが身に付きそう		
順位		回答率	順位		回答率
1	ニッセイ情報テクノロジー	47.0%	1	SCSK	34.4%
2	NTTデータ・アイ	41.7	2	日本ヒューレット・パカード	33.0
3	JSOL	38.2	3	TIS	31.6
4	日立製作所	37.2	4	JSOL	31.5
5	日本総合研究所	37.2	5	NTTデータ フィナンシャルテクノロジー	31.0
幅広い業界や業務に関われそう			教育研修が充実していそう		
1	パナソニック インフォメーションシステムズ	23.6%	1	ニッセイ情報テクノロジー	37.2%
2	シーイーシー	20.2	2	SOMPOシステムズ	29.6
3	楽天グループ	19.2	3	BIPROGY	28.0
4	グーグル	18.4	4	シーイーシー	26.9
5	キヤノンマーケティングジャパン	18.2	5	トヨタシステムズ	26.9

注：総合ランキングが50位以内の企業を対象に算出した。例えば「社会に役立つ仕事ができそう」で1位のニッセイ情報テクノロジーの場合、同社を希望する学生の47.0%が同内容を志望理由に挙げている。回答率は小数点以下第2位で四捨五入しているが順位は四捨五入前の数値で判定している